



Title	大学文書館業務記録(2005年5月-12月) : 大学文書館業務日誌(2005年5月-12月) : 大学文書館構成(2006年1月4日現在)
Citation	北海道大学大学文書館年報, 1, 64-67
Issue Date	2006-02-28
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/43363">http://hdl.handle.net/2115/43363</a>
Type	bulletin (other)
File Information	1_64-67.pdf



[Instructions for use](#)

## 〈 記 録 〉

### 大学文書館業務記録 (2005年5月～12月)

#### 1. 公文書整理業務

##### (1) 農学研究科・農学部所蔵資料の調査

6月13日から7月12日の約1カ月をかけて、農学研究科・農学部が建物内3カ所の資料保管室に所蔵している庶務・経理・学務関係文書等の資料調査を行なった。資料調査の方法は、基本的に保管されている書架等の順番に従って、資料一点一点に仮資料番号を付した付箋を挟み込み、仮目録を作成した。仮目録には、仮資料番号・作成年月日・資料名・作成者・資料形態・保存場所・保存位置を記載した。計4,716点。これらの文書等に関しては、2006年1月以降、大学文書館への移管に向けて、農学研究科・農学部と検討を行なう予定である。

また、すでに農学研究科・農学部で廃棄することが決定していた文書等の資料40箱の移管を受けた。

##### (2) 北方生物圏フィールド科学センター研究林所蔵資料の調査・移管

7月、北方生物圏フィールド科学センター研究林が農学部建物内の資料保存室に所蔵している文書等の資料調査を行ない、仮目録を作成した。計971点。

11月、農学部建物改修のための研究林資料保存室3カ所の明け渡しに伴い、上記971点の資料を含む旧演習林時代の文書等の資料459箱の移管を受けた。12月より、移管された文書等の資料の目録作成に着手している。目録には、移管資料番号・作成年月日・資料名・作成者・資料形態・移管前保存場所・移管前保存位置を記載している。

##### (3) 北方生物圏フィールド科学センター農場関係資料の受け入れ・調査

11月、農学研究科大学院生が取得した旧農学部附属農場関係資料1箱を受け入れた。12月、北方生物圏フィールド科学センター農場が同庁舎内の資料保存室に所蔵している文書等の資料を確認した。書棚等に収蔵されているが、目算で約100箱程度である。2006年1月以降に移管に向けて検討する予定である。

##### (4) 経済学研究科・経済学部所蔵資料の移管

7月、経済学研究科・経済学部で廃棄する予定であった文書等の資料59箱の移管を受けた。

##### (5) 理学研究科・理学部所蔵資料の移管

7月、理学研究科・理学部で廃棄する予定であった会計関係文書等の資料39箱の移管を受けた。さらに、11月、会計関係文書等の資料38箱の移管を受けた。

## 2. 資料収集業務

学内外の個人・諸機関から、24件106点の文書資料・記念品・絵葉書・写真・刊行物などの大学関係資料を受贈した。特に、北海道帝国大学における女性の入学についての調査・研究に関わって、関係者、日本女子大学成瀬記念館、理化学研究所などから8件43点の資料・刊行物を寄贈いただいた。このほか、主な収集資料には以下のようなものがある。

- ・北海道出版文化祭記念式典における祝辞（伊藤誠哉北海道帝国大学総長、1947年6月6日）
- ・北海道帝国大学文武会1936年10月行幸記念メダル
- ・佐藤昌介書の掛け軸（1933年）
- ・青年寄宿舍閉舎記念事業実行委員会・閉舎記念誌編集委員会『我が北大青年寄宿舍青年寄宿舍107年の歴史』（2005年）
- ・渡瀬良道・柏木実編『渡瀬寅次郎・香芽子の歩んだ道』（渡瀬寅次郎香芽子顕彰会・財団法人興農学園、2005年）、資料編（CD-R、2005年）

また、学内の部局等や学外の諸機関・個人から多くの定期刊行物や著作等を受贈した。

そのほか、大学に関係する写真、高岡熊雄・伊藤誠哉らが寄せ書きをした日章旗、前述の女性の入学についての調査・研究に関わる資料など、9件84点の資料を所蔵者から借用し、複写を作成した。

## 3. 参考調査業務

学内外からの大学文書館への問い合わせは、計38件であった。内訳は、①大学関係資料に関するもの15件、②大学の歴史に関するもの16件、③そのほか7件である。

## 4. 研究調査業務

北海道帝国大学における女性の入学について、研究調査を開始した。

10月、日本女子大学成瀬記念館に、日本女子大学校出身者で北海道帝国大学理学部に入学した女性についての調査協力を依頼した。以後、日本女子大学成瀬記念館より、資料の閲覧・借用・提供、日本女子大学校出身者の紹介等、継続的に御協力を得ている。

11月、北海道帝国大学理学部・農学部に学部学生として入学した女性および縁者に調査協力の依頼を開始した。

12月8～9日、藤沢市において、北海道帝国大学理学部に入学した女性に御協力いただき、4名の方から聴き取り調査を行なった。主な調査内容は(1)理学部入学前の教育環境（専門学校等の出身校における授業内容・理数系担当の教員等）、(2)理学部入学の動機・経緯・背景、(3)理学部受験の手续・内容（傾向と対策、資格検定試験の有無等）、(4)理学部での学生生活、(5)理学部卒業後の経歴等である。次回は2月中旬に実施予定である。

## 大学文書館業務日誌 (2005年5月～12月)

- 5月1日 大学文書館設置。逸見勝亮館長、井上勝生副館長、井上高聡助手着任
- 5月23日 看板上掲式
- 5月30日 桃山学院大学史料室の西口忠氏、原登久雄氏が見学のため来館
- 6月1日 山本美穂子事務補助員着任
- 6月8日 第1回大学文書館運営委員会
- 6月13日 農学部在所蔵資料を調査 (7月13日まで)
- 6月21日 農学部所蔵の公文書等33箱を受け入れ
- 7月7日 経済学部所蔵の公文書等59箱を受け入れ
- 7月22日 理学部所蔵の公文書等39箱を受け入れ
- 8月8日 第2回大学文書館運営委員会
- 8月23日 Web サイト開設
- 8月25日 国文学研究資料館の竹内桂氏、ほか7名が見学のため来館
- 8月27日 京都大学における平成17年度科学研究費補助金基礎研究 (C) 「大学所蔵の歴史的公文書の評価・選別についての基礎的研究」第1回研究会に出席 (逸見、井上、山本)
- 9月 全国大学史資料協議会東日本部会入会
- 10月4日 大阪大学総合計画室文書館 (仮称) 設置検討ワーキングの主査阿部武司氏、同委員竹中亨氏が見学のため来館
- 10月5～7日 慶應義塾大学 (三田キャンパス) ・日本女子大学における全国大学史資料協議会2005年度総会ならびに全国研究会に参加 (山本)
- 10月25日 東京大学史料編纂所の松澤祐作氏、小野将氏が見学のため来館
- 11月14日 北方生物圏フィールド科学センター研究林所蔵の旧演習林公文書等449箱を受け入れ
- 11月21日 理学部所蔵の公文書等38箱を受け入れ
- 12月1日 北海道立文書館主催平成17年度文書等保存利用機関・団体等職員研修会に参加 (山本)
- 12月6日 北方生物圏フィールド科学センター農場の所蔵資料を調査
- 12月7～9日 日本女子大学成瀬記念館において資料調査。神奈川県藤沢市にて、北海道帝国大学理学部における女性の入学について、関係者4名に聴き取り調査 (山本)

## 大学文書館構成 (2006年1月4日現在)

◇館長	逸見 勝亮 (理事・副学長)	2005. 5. 1.～
◇副館長	井上 勝生 (文学研究科教授)	2005. 5. 1.～
◇運営委員会		
委員長	逸見 勝亮 (大学文書館館長)	2005. 5. 1.～
副委員長	井上 勝生 (大学文書館副館長)	2005. 5. 1.～
委員	眞壁 仁 (法学研究科助教授)	2005. 5. 1.～
	米山 祐司 (経済学研究科教授)	2005. 5. 1.～
	櫻井恒太郎 (医学研究科教授)	2005. 5. 1.～
	平川 一臣 (地球環境科学研究院教授)	2005. 5. 1.～
	喜田 拓也 (情報科学研究科助教授)	2005. 5. 1.～
	田畑伸一郎 (スラブ研究センター教授)	2005. 5. 1.～
◇兼務教員		
	白木沢旭兎 (文学研究科教授)	2005. 5. 1.～
	大櫃 敬史 (教育学研究科助教授)	2005. 5. 1.～
	角 幸博 (工学研究科教授)	2005. 5. 1.～
	杉山 滋郎 (理学研究科教授)	2005. 5. 1.～
	坂下 明彦 (農学研究科教授)	2005. 5. 1.～
◇館員		
	井上 高聡 (大学文書館助手)	2005. 5. 1.～
	山本美穂子 (大学文書館事務補助員)	2005. 6. 1.～
	栗山智恵子 (資料整理アルバイト)	2005. 12. 14.～
	佐々木 恵 (資料整理アルバイト)	2005. 12. 14.～
◇事務	事務局総務部総務課企画係	

### 〔編集後記〕

2005年5月23日、「北海道大学大学文書館」標札板の上掲を行なった。縦100cm、横24cm、厚さ2.5cmの質朴な木目の板は、北方生物圏フィールド科学センター雨龍研究林から提供いただいたホオノキである。文字は、奥寺清氏に揮毫していただいた。施設、組織共に不十分な中で仕事を開始した大学文書館にあっては、標札板が最も立派であるかも知れない。今後、『年報』には、看板に恥じない仕事を記録していきたいと考えている。 (井上 高聡)